

1 作 物

項 目	作 業 内 容																				
<p>(1) 普通期 水 稻 の 管 理 ・ 収 穫</p>	<p>(今月の作業のポイント) ○普通期水稻の管理・収穫 ○次作の水田雑草防除 ○大豆の管理 ○麦の種子とほ場の準備</p> <p>ア 水管理・落水 登熟期間は間断かん水により土壌を湿潤気味に管理する。 落水時期が早いと玄米の粒厚が薄くなり、品質・食味低下を招くため、収穫5～7日前の落水を基準とし、天候や水田の状況を見て判断する。また落水日までは水を張っておき、一気に落水する。</p> <p>イ 収穫適期 本年の普通期水稻の出穂時期は平年並であり、成熟期も平年並と予想される。向こう1か月の平均気温は平年より高い見込みであり(9月15日高松气象台発表の1か月予報)、成熟期が早まる可能性もある。収穫にあたっては下記の表を参考にほ場観察を行い、適期収穫に努める。 ‘ヒノヒカリ’は、刈り遅れると茶米が混じり品質が低下しやすいので留意する。特に‘ひめの凜’では、刈遅れを防ぐため黄変率85%に達したら刈り始める。</p> <p>表 水稻の収穫適期基準</p> <table border="1" data-bbox="434 1417 1390 1615"> <thead> <tr> <th></th> <th>ひめの凜</th> <th>ヒノヒカリ</th> <th>にこまる</th> <th>松山三井</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出穂後日数(日)</td> <td>37～43</td> <td>40～46</td> <td>42～48</td> <td>50～57</td> </tr> <tr> <td>最長稈黄変率(%)</td> <td>85</td> <td>85</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>積算温度(℃)</td> <td>900～1,000</td> <td>900～1,050</td> <td>1,000～1,150</td> <td>1,050～1,200</td> </tr> </tbody> </table> <p>ウ 乾燥・調製 収穫した籾は、長時間堆積したまま放置すると品質が低下するため、収穫後はすみやかに乾燥する。食味低下を防ぐため、乾燥温度はできるだけ低温に設定し、乾減率は毎時0.8%程度とする。高水分籾(25%以上)は水分ムラが多いので一度35℃以下で乾燥し、水分を20%に下げた後、再び通常の熱風温度で乾燥する。玄米の仕上がり水分は14.5%を目標とし、過乾燥(14%以下)や高水分(15%)</p>		ひめの凜	ヒノヒカリ	にこまる	松山三井	出穂後日数(日)	37～43	40～46	42～48	50～57	最長稈黄変率(%)	85	85	90	90	積算温度(℃)	900～1,000	900～1,050	1,000～1,150	1,050～1,200
	ひめの凜	ヒノヒカリ	にこまる	松山三井																	
出穂後日数(日)	37～43	40～46	42～48	50～57																	
最長稈黄変率(%)	85	85	90	90																	
積算温度(℃)	900～1,000	900～1,050	1,000～1,150	1,050～1,200																	

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 次作の水田雑草防除</p>	<p>以上) とならないようにする。</p> <p> 粃摺りでは、ゴムロール等の消耗部品の交換や調整を事前に行い、玄米の肌ずれや胴割れ米の発生、粃混入を未然に防ぐ。</p> <p> 調製では必ずライスグレーダーを使用し、ふるい目 1.85 mm 以上で入念に選別し、整粒歩合 80% 以上を目標に仕上げる。</p> <p> 近年は除草剤だけに頼った雑草防除が増えており、除草剤の効きにくい難防除雑草が増加している。ノビエ等の一年生雑草は、放置すると多量の種子を作り、次年度の多発生につながるの、なるべく早い時期に抜き取る。ミズガヤツリ、クログワイ等の多年生雑草は、地下茎や塊茎で繁殖するため、水稻収穫後、非選択性茎葉処理剤をスポット散布したり、反転耕で土中の塊茎を露出させ、乾燥と寒気で枯死させる。また地域の広範囲で特定の雑草が残る場合は、除草剤の変更を検討する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 ノビエ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 クログワイ (塊茎)</p> </div> </div>
<p>(3) 大豆の管理</p>	<p>大豆は子実肥大期～成熟期を迎えるが、この時期にはほ場が長時間湛水すると、根傷みにより登熟不良を引き起こす。また、倒伏した莢が浸水すると腐敗粒増加の要因となるため、収穫期まで明きよの補修や排水口との接続等を確認するなど、停滞水の排水に努める。</p>
<p>(4) 麦の種子とほ場の準備</p>	<p>ア 種子の準備</p> <p> 麦は自然交雑が起こりやすく、自家採種を続けると品種特性の劣化、混種や変種が発生することがあるため、2～3年に1回は種子を更新する。</p> <p> 種子伝染性病害（裸黒穂病、斑葉病など）を防除するため、種子消毒は必ず行う。薬剤はベンレートTコート(乾燥種子重量の0.5% 粉衣処理) などを選択する。多量の種子を消毒するには種子消毒機の利用が便利であるため、JAでの機械の貸出しを活用する。</p>

項 目	作 業 内 容
	<div data-bbox="507 295 1342 633" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="826 645 1050 678" data-label="Caption"> <p>写真3 裸黒穂病</p> </div> <div data-bbox="491 712 833 745" data-label="Section-Header"> <p>イ 播種前のは場の準備</p> </div> <div data-bbox="491 763 1390 842" data-label="Text"> <p>麦の播種期の多雨は出芽不良や減収を招くため、湿害対策は万全に講じる。</p> </div> <div data-bbox="491 860 1390 1128" data-label="Text"> <p>水稻の後に麦を栽培するほ場では、降雨後にすみやかに排水し、麦の適期播種が可能となるよう準備する必要がある。このため、水稻収穫後はできるだけ早期に額縁明きょ(写真4)や弾丸暗きょ(写真5)を施工し、ほ場の乾燥に努める。チゼルプラウ耕(写真6)を併用すると土壌が乾きやすくなり、播種時の碎土性が向上する。</p> </div> <div data-bbox="544 1162 788 1503" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="499 1514 842 1547" data-label="Caption"> <p>写真4 額縁明きょの施工</p> </div> <div data-bbox="900 1162 1358 1503" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="954 1514 1297 1547" data-label="Caption"> <p>写真5 弾丸暗きょの施工</p> </div> <div data-bbox="643 1599 1235 1906" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="783 1912 1094 1946" data-label="Caption"> <p>写真6 チゼルプラウ耕</p> </div>